

# グローバル社会における海外留学の 在り方とキャリア形成

## —キャリアフォーラムにみる企業の採用トレンド—

株式会社ディスコ グローバル教育推進プロジェクトリーダー 奥村 倫也

Tomoya Okumura

### はじめに

株式会社ディスコでは、1973年の創立以来、企業の人材採用や広報支援、大学などの教育機関に対する入試広報、キャリア教育、就職支援など「学ぶ・働く」を軸とした幅広い人材支援事業を提供してきた。

「国際化」と称される1980年代、企業の海外進出が活発化を増し、同時に日本からの海外留学者数が増加傾向となる中、国際人材ニーズの高まりに 대응べく、同社では、海外で学ぶ日本人留学生を対象とした就職イベント「キャリアフォーラム(Career Forum)」の企画に着手、1987年に米国ボストン市で初開催した。以来、今日に至るまでの約25年間に渡り日本人留学生の就職支援のパイオニア企業としてグローバル社会と人材の出会いの場を創り続けている。

国際化時代からグローバル化時代へ社会全体が変革を遂げる中、四半世紀に渡り企業の人材採用支援と日本人留学生の就職・キャリア支援に取り組んできた企業の立場から、新たなグローバル社会における海外留学の在り方とキャリア形成、また今後の方向性や課題について考えてみたいと思う。

### 留学生の就職活動スタンダード「キャリアフォーラム」

米国マサチューセッツ州ボストン、1年に一度この街に日本人留学生が溢れる週末がある。毎年秋に行われる、海外の大学・大学院で学ぶ留学生・日英バイリンガル人材を対象としたジョブフェア「ボストンキャリアフォーラム(Boston Career Forum)」である。

このイベントには全米から就職活動中の留学生や留学経験者たちが集まってくる。中にはヨーロッパや日本、アジアからはるばる参加する人もいる。対象は、1) 海外の大学・大学院の日英バイリンガル卒業予定・既卒者、2) 日英バイリンガルの転職希望者、3) 日本の大学・大学院に在籍している交換留学生など。近年では卒業までに1年以上ある海外大生が、企業研究のためやインターンシップを求めるために参加するケースなども多い。参加者は3日間でのべ約1万人。参加企業も世界の人気ブランド企業200社近くが名を連ね、非常に華やかな顔並びである。企業トップ自らが参加し、その場で意思決定できる体制を整えている企業も多く、そのため3日間のイベ

ント期間中に内定まで獲得する学生も多数見られる。

一般に海外の大学・大学院で学ぶ留学生は、日本の就職活動シーズンを海外で過ごすため、様々な面でハンデを抱え、企業の採用意欲の高い人材でありながらも厳しい就職活動を強いられる場合が多い。そんな留学生にとって、アメリカで開催されるこのジョブフェアは米国のみならず、ヨーロッパやアジアなど広く一般に海外で学ぶ留学生のための数少ない就職活動の貴重なチャンスとなっている。

キャリアフォーラムは、海外で学ぶ日本人留学生を対象に、就職のための企業との出会いの場として、1987年にボストン市で初開催された。第1回イベントの参加企業は35社、参加者総数は946名であった。その後も開催を続け、昨年2011年には第25回を迎え、参加企業は170社以上、参加者総数も1万人を超えた。開催地もボストンを皮切りに、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ロンドン、ニューヨーク、東京などへと広がり、今日では日英バイリンガル人材のためのジョブフェアとして世界最大規模に成長を遂げ、海外で学ぶ留学生の就職活動スタダートとして、その地位を確立している。

キャリアフォーラムの特徴は、単なる企業合同説明会ではなく、集団面接会の意味合いが強いイベントだということである。参加者は公式サイト「キャリアフォーラムネット(Career Forum.net)」を利用して参加登録すると、応募を受け付けている企業に対し、事前にオンライン応募できる。企業は応募者を書類選考し、事前に面談のためのアポイントメントを設定することもできる。そのためキャリアフォーラムは単なる3日間だけのジョブフェアではなく、キャリアフォーラムネットと連携し事前のオンラインコミュニケーションから始まり、イベント会場を面接の場と捉えた「留学生の採用プロジェクト」と言える。



ボストンキャリアフォーラム会場 (米国ボストン市)



## 加速する「グローバル・コア人材」ニーズ、留学生に求められる資質

急速なビジネス社会のグローバル化と一方で飽和状態にある国内マーケットを背景に、企業の人材戦略、採用活動にも国際化の勢いが増している。経済不況の中、企業体質スリム化への一環として取組んでいる厳選採用の流れも、単なる採用人員抑制ではなく、たとえ少数であっても、将来のグローバル社会の中核を担う「コア人材」の厳選且つ、積極的な採用活動に変化している。

コア人材に求められる具体的な能力としては、「問題発見能力と問題解決能力」「担当分野に関する専門知識と業務処理能力」「新しいアイデア及び創造力」など。その中で留学経験者は語学力・国際コミュニケーション能力などに加え、専門分野での高い知識・能力・旺盛な好奇心や行動力などが評価されている。単に留学生だからということで期待が高まっているわけではなく、本来的にもっているであろう、その素質に注目が集まっている。

ITの進展、グローバルネットの普及で今やビジネスに国境はない。人材の採用活動においてもボーダレス化の勢いは増している。優秀な人材であれば国内学卒者のみに留まらず、海外で学んだ日本人留学生に目を向ける企業が増えるのは当然で、更に最近では日本で学ぶ外国人留学生の採用を検討する企業も増加傾向にある。かつてのように語学力に期待するというより、異文化に接し、未知の世界に挑戦するベンチャー精神にかける企業が多い。求められる人材の資質としても、異文化を理解し国際社会で共存できる能力とバイタリティー、溢れるような自立精神などが挙げられる。ボーダレスなビジネス社会で活躍できる資質を持つ、「グローバル・コア人材」の獲得は、日本のみならず世界の企業にとって益々重要な課題とされており、まさに「Global Talent War」の時代といえる。

## 異文化の中で培った「本物のグローバルマインド」に期待

一昔前であれば、自らに企画提案力や交渉力、意思決定力をもたなくても、流暢な語学力を駆使して海外との橋渡し役を演じる、そんな人材が数多く活躍していた。しかしビジネスのグローバル化が進展し、多様化する環境への適応性や新たな価値観を生む創造性が求められるようになった今、自らがアイデアを出し、創造力、企画力、行動力、調整力を駆使しながら交渉の舞台に立ち、それを形にしていくことのできる人材でなくては通用しなくなっている。ビジネスを遂行する上で求められる本物のグローバルマインドを兼ね備えたヒューマンスキルに期待が高まる。

そんな中、自社に就職を希望する海外留学生の本質を見出すため、社長自ら面接をする企業もある。それだけ人材というのは企業の大切な資質なのだ。留学生の採用に対して多くの企業は、大学名や専攻学科ではなく、企業の成長や事業の発展を更に引き伸ばすための豊かな創造力や積極的な行動力が身についているかどうかなど、本当に異文化の中で学んだ経験と気概、潜在能力をもっているかを見極めることに重点をおいている。

国際感覚を身につけた人材や世界的に通用する技術力を持った人材を確保すること

に熱心な多くの企業の人事担当者は「異文化に接し、行動力を身につけた留学経験者は魅力的」と考える。幅広い分野でグローバルな事業展開を行っている関係で、海外との取引に従事する企業は多く、当然、英語を中心とする語学力は重視する。

世界戦略を展開する主軸となるべき専門家集団を作る一つ的手段として留学生の採用に着目する企業も多いと考えられる。企業にとって留学生採用のメリットは、ひとつには異文化の感覚を持った人材を採用することで、社内の雰囲気が変わり、空気が変わってくることにあると言える。違う考え方をもった人間同士が切磋琢磨することで、競争原理が働き、相乗効果も生まれる。新たな価値観や見方、事業の展開がそこから生まれてくるということだ。

留学経験者の採用に熱心な多くの企業に共通するのは「同じ留学経験でも、きちんとした意思と目的を持って留学した人を選ぶ、語学力や海外経験があるからだけでは採用しない。」という点である。確固たる自分の意思で留学した人は窮地に立った時の判断力や行動力も違う。語学力は勉強すればテストの点数は挙げられるが、自主性や自立心はそうはいかない。チャレンジした人にはそれなりに磨きがかかり、実社会に出ても通用する実力がついてくるものだ。

### 求められるコミュニケーション能力とは

厳選採用の中身は、能力、資質など、その企業が求める経営理念（人物像）によって異なるものの、グローバル時代の今、ビジネス社会で共通するのは「表現力豊かなコミュニケーション能力」。一般的に企業に対するアンケート調査で「社員に求めるもの」の上位に常に挙げられるのもコミュニケーション能力。専門性を求められる理工系の職種でも、「専門知識」に加えてコミュニケーション能力を重視する傾向は高いようだ。こうした背景には、普段のコミュニケーション手法としてEメールやネット上でのツールが主体となり、それにより実社会の場で必要とされる、人としての表現力や伝達力、協調性の低下を感じている企業が多いことなどが挙げられる。

コミュニケーション能力とは対面する相手などと正確な情報のやり取りが出来ること。そのためには物事の背景に精通していなければならない。特にグローバル社会においては相手の国の経済、政治、社会、文化、価値観などを良く理解した上での対応が求められ、単に語学力があればよいというものではない。留学経験者はこうした点において確かに有利な立場にあるといえる。

しかし、ここで忘れてはならない大切なことがある。確かに語学力はあろう、異文化に触れた実績もある、だが、日本語はどうだろうか？母国である日本の歴史、文化、そして現代の社会事情を外国人に的確に語れるほど熟知しているだろうか。母国語や母国の歴史、文化、風土を知らなくてグローバル社会を語ることなど到底出来ない。日本語をきちんと読み、書き、話せる基礎が出来ていない状態で、英会話だけが出来ていても真のコミュニケーションは成立しないと理解するべきだ。

国内においては、以前にも増して語学力習得の必要性が高まっている。英語が話せ、グローバル社会で適用するスキルを身につけるためだ。しかし、そうした流れの中には「英会話＝国際理解」という短絡的な発想が依然としてあることを多くの識者は指

摘する。確かに国際社会で活躍できるようになるためには外国語が堪能であることはプラスの要因ではあるが、その前提として日本の知識、教養人として適用する土台が無くてはならない。そのためには第一言語である日本語でのコミュニケーション能力をきちんと身につけることを忘れてはならない。

### 留学経験の最大の優位性とは

留学経験者の中には、実際に働き出した後、職場に自分が慣れ親しんだ海外生活の習慣や振る舞いを持ち込んでしまうことがある。「海外では〇〇〇だったから」というような一方的な感情をもち、異国の文化を日本国内で優先してしまうようなケースだ。帰国後まもなくは、まだ自分が留学生である(であった)という自覚が強いため、「留学経験者」という枠に自分を当てはめ、自らを特別扱いしようとする心理が働くことがある。また、「留学経験」という事実により、他人との差別化を図ろうとする現れを言動で示すことも多く見られる。こうしたことが企業や実社会で受け入れられることはあまりなく、むしろ場合によっては自分勝手な行動や考え方の持ち主だと思われることさえある。

日本では日本の振る舞いや考え方があるということをも十分理解することが大切であり、この部分の切り替えが自身の中でできないうちは、留学経験は不利に働いていると言っても過言ではない。逆に留学経験が有利に働く場合は、こうした異文化の違いを十分理解した上で、職場での仕事や人間関係を築くことができた時である。

今日では、外国人社員を積極採用する日本企業も増えている。日本で学び、働く外国人社員に対しても、一方的な日本人の感覚や振る舞いで接するのではなく、それぞれ異なる相手の文化的背景や価値観を十分に理解し、それらを受け入れ、お互いを尊重できる人間関係の構築が必要となる。語学力のみを最優先した職場は非常に限られており、多くの場合、留学経験者に求められるものは、幅広い視野と豊かな創造性、異なる環境への柔軟性などの実践的なスキルと人格であろう。

語学力においては、留学したからといって誰もが英語力を身につけられているわけではなく、また基礎的な英語でのコミュニケーションは出来ても、留学先から帰国してすぐに、また海外の大学を卒業しただけではビジネスの場で必要とされる実践的な英語力、交渉力を持ち合わせている留学生は非常に限られている。

留学を通して身に付けた英語力の多くは、学校生活を送る上で必要な、いわば「チューデント英語」に限られたケースが多く、実際のビジネスシーンで使われる英語やスキルとは異なるものと理解しておいたほうが現実的である。「留学の成果＝語学力の習得」と考えるのであれば、「留学経験」それ自体だけでは、現実的には就職やその後のステップアップに有利に働くということは難しい。むしろ人生観や職業観を深めることで人間的成長を施すことが出来ることこそが、留学経験の最大の優位点と捉えるべきである。

## キャリアへの自己投資

海外の大学や大学院で専門分野を学び、将来のキャリアへつなげたいと考える人は多い。しっかりとした目的と強い意志を持って留学生活へ踏み出すことはとても大切なことではあるが、現実的に留学経験が自身の目指す就職やキャリアへどのようなつながるのか、よく考えてみることは必要だ。単に「高度なスキルや知識を得ることが就職や次のキャリアへつながる」と決めつけるのは危険だ。「キャリア」とはいったい何なのか。日本ではおおむね、経験を通じて身につけた実務能力、簡単に言えば経験や職歴という狭い範囲の意味として捉えられることが多い。しかし、この「Career」の語源が「生涯」の意味を持っている以上、就職や転職といった一時的なものではなく、生涯を通じて継続していくものと捉えるべきだ。

社会とどのようにかかわり合っていきたいかという根本的な問いから出発し、自分のキャリアパスをどのように形成していきたいかを考え、個人的な能力や価値観を見定めながら職業を模索、そして職業経験を通じて能力やスキルを磨き、自己実現を図っていく。つまり海外留学を就職やキャリアへの有効なステップとしたいのであれば、留学を単に「学ぶ場所、期間」と考えるのではなく、将来活躍するためのフィールドを広げ、進むべき道を見出すための「キャリアへの投資」と位置づけるべきだ。

留学先で得た経験は貴重なものであるが、まずは留学そのものへの価値観を自ら見出し、自分の中で整理しておくことが大切である。留学生生活を終えた時には「この留学は自分にとってどんな意味があったのか」、「何を得たのか」、「自分の中で何が変わったのか」などを、自信をもって言葉で伝えられることが求められる。

## 自分らしい就職、キャリア形成を実現するために

就職活動で成功するには「人間性（パーソナリティ）」「能力・資質（コンピテンシー）」「意欲・姿勢（ビジョン）」をバランスよく兼ね備えていることが重要である。確かにこれらを高いレベルで兼ね備えた人材であれば、企業も高く評価し、多くの内定を獲得することも難しくはないだろう。

しかしながら、それ以上に大切なことは、企業（仕事）と自分の適切なマッチングを図れる力である。何よりもまず「自分にとっての就職とは何か」「働くとはどういうことか」「仕事を通じてどんな将来を手に入れたいのか」といったことを考えてみてほしい。

誰でも自分らしい就職、自分ならではの就職をすることはできる。特に現代では様々なワークスタイル、様々な価値観が受け入れられており、自分らしいキャリア形成、自分だけの人生設計が可能となっている。だからこそ他人との比較や旧来の価値基準にとらわれない、本当の意味での自分にとっての「いい就職」を考えなければならないのだ。

今や大卒新入社員の3割が3年以内に離職・転職する時代。そこには企業と自分のマッチングを軽視し、世間的な「いい就職」のイメージにとらわれてイーージーな選択をした結果がうかがえる。人との比較ではなく、自分自身のための就職を考える力こ

それが真の「就職力」といえよう。就職活動の結果は数十年後に出てくるもの、短期的な目で「内定王者」を目指すのではなく、長期的な見方で「人生の勝者」になることが大切だ。

海外留学という大きな冒険に挑戦し、いくつかの厳しい壁を乗り越え、自分を鍛えてきた留学生ならば、成果を出すには時間と労力がかかることは分かっているはず。目先の結果や周りのプレッシャーにとらわれず、自分自身と深く向き合い、本当の「就職力」を身につけてほしいものだ。

## 目指すべきは、アジアを舞台としたグローバル社会で活躍出来る人材

近年目覚ましい成長と市場の拡大に期待されるアジア・新興国市場への注目は増しており、世界規模で企業の進出が活発化している。多くの日本企業においても、そのために必要な人材の確保と育成が大きな課題となっており、「グローバル・コア人材」の獲得競争は巨大グローバル・アジア市場を舞台として世界レベルで行われている現実がある。

企業のアジア進出や現地拠点における人材ニーズが高まりを見せる中、最近の企業の採用志向にも変化が見受けられるようになってきている。国内の日本人学生との比較により、日本人留学経験者の採用の優位性を見出していたこれまでとは異なり、市場がアジアへ移っていく今、高度な英語力とアジアのローカル言語・文化・習慣に長け、更に国際感性、専門知識を兼ね備えた、即戦力としての活躍に期待が持てる有能なアジアン・バイリンガル人材の獲得に期待が高まりつつある。つまり日本人留学生の就職戦線での競争相手は国内の日本人学生ではなく、むしろ同じ海外の地で学ぶアジアからの留学生になるという見方である。こうした企業ニーズに沿う形でディスコ社では、昨年より米国で学ぶアジア出身の留学生を対象とした「Asian Bilingual Job Fair」の開催にも着手している。日本を含めた世界のグローバル企業からの期待も高く、今後の新たなバイリンガル人材獲得マーケットとなることが予想される。

日本人の留学先としては、まだまだ根強い人気の欧米諸国ではあるが、海外留学の在り方は、いつの時代であっても、その時代ニーズに即したキャリア形成の一部であるべきだと考える。そして今、益々拡大と発展が進むアジア市場において、人材ニーズの多様化に対応すべく、アジア・新興国といった次なるマーケットへの留学と教育機会の更なる創造が求められる時でもあると考える。

目指すべきは、アジアを舞台としたグローバル社会で活躍出来る人材だ。日本のグローバル化推進の礎となる人材教育と育成へ向けた各界の取組みに期待したい。

---

## 株式会社ディスコ

1973年創立、企業の人材採用や広報支援、大学などの教育機関に対する入試広報、キャリア教育、就職支援など「学ぶ・働く」を軸とした幅広い事業を提供する総合人材サービス企業。「日経就職ナビ」、「日経進学ナビ」などの就職・教育メディアの運営

を始め、関連メディアを活用した企業や大学のマーケティング、広報支援などを提供。世界最大規模とされる日英バイリンガル人材、留学生のための就職フェア「ボストンキャリアフォーラム」を始め、ロサンゼルス、ニューヨーク、ロンドン、東京など世界各地にてバイリンガル就職フェアを開催。国際就職支援サイト「CFN」(Careerforum.net)の運営と共に、日英・日中バイリンガル人材、海外留学生へのキャリア・就職支援、企業に対するグローバル人材採用・育成支援を幅広く提供。また、企業・教育機関に対するグローバル人材育成支援、国際教育・海外留学の推進活動などにも幅広く取り組む。 企業サイト：<http://www.disc.co.jp>